

## 第616回建設技術講習会 現場研修事業の概要

### 1. 新町川環境整備

…………… 徳島市東船場町他

新町川と助任川に囲まれた市中心部「ひょうたん島」の護岸には1990年代初めから青石が張られ、観光客の間で評判になりました。しかし、護岸整備から約20年が過ぎると、青石が剥がれ落ちたり、コケで覆われたりして劣化が目立ってきました。地元で活動しているNPO法人新町川を守る会（以下、守る会）では、2012年5月、県に修復作業を申し出たところ、徳島県は、河川管理施設などの維持管理に民間の手を借りる「かわ普請事業」を適用し、修復に必要な材料を提供し守る会に委託しました。守る会の会員は7月、川に落ちた青石を集めて洗い、藍場浜公園から新町川水際公園までの護岸を中心に約200個を元通りに張り付けました。この作業は県の職員や地元の子どもたちも協力し実施しました。この新町川を守る会は、1990年3月に「市民の汚した川は市民の手できれいに再生しよう！」と有志10人で会を発足し、毎月2回ボートで川の清掃を始めました。今では、徳島市のひょうたん島を囲む新町川と助任川の他、田宮川、吉野川の清掃、ひょうたん島周遊船の運航、花植え、植樹活動など、年間を通しての多彩なイベントを行っています。また徳島市では、新町川沿いに水際公園を整備し、噴水などの水の形態を演出する多彩な水空間を創出した公園整備を実施しています。新町川では、周辺の環境整備とまちづくりを一体的にとして、官民協働による河川環境整備とまちづくり活動を積極的に行っています。



### 2. 四国横断自動車道（北島津波一時避難場所整備事業）

…………… 徳島県板野郡

四国横断自動車道（阿南～徳島東）は四国8の字ネットワークの一部を形成し、四国東南部における広域交通ネットワークの形成、災害時の代替道路としての役割を担い、地域に安心と活力をもたらすものと期待されています。平成26年2月、西日本高速道路(株)四国支社は、高速道路区域における津波避難場所の整備等に関する相互協力協定を徳島県及び沿線自治体と締結しました。平成27年3月14日に開通した「鳴門～徳島」間の建設に合わせ、北島町では太郎八須地区と中村老門地区に、それぞれ900、350人が避難可能な津波避難場所を設置しています。加えて、徳島市は川内町に2ヶ所、鳴門市は大津町大幸に2ヶ所、松茂町は長岸地区に1ヶ所、計7ヶ所の津波避難場所が整備され、松茂パーキングエリア（PA）背後地の活用を含めると、約4千人以上の住民が避難可能となっています。



避難施設は、高速道路の法面や高架下に設置され、盛土やタワー等の構造形式を採用し、階段状にして避難者が腰掛けできるなど、お年寄りや足の不自由な方でも避難しやすい工夫が施されています。このように、今後、高い確率で発生すると予測される南海トラフ地震に対し、津波から地域住民を守るといった、地域防災力の向上にもつながるものと期待されています。

### 3. 撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業

…………… 鳴門市撫養町

撫養港海岸の背後地域には、JR鳴門駅をはじめ、市役所などの行政・文化施設や徳島県の災害拠点病院（鳴門病院）も立地し、都市機能や地域医療において重要な役割を果たす中心地域となっています。徳島県は、安政南海地震（1854年）、昭和南海地震（1946年）等、過去幾度となく大きな津波被害を受けました。また、1961年（昭和36年）の第2室戸台風被害を契機に整備された既存堤防は、亀裂の発生や水叩きが陥没する等、老朽化が著しい状況でした。また、今後非常に高い確率で発生すると予測されている南海トラフ地震の津波被害から地域を守るため、堤防の嵩上げや堤防周辺地盤の液状化対策工事が急務となっており、平成18年度より事業を着手しています。

